浄土要文物目録

第一　和讃のこと

第二　法然上人一枚起請文物の事

第三　勅免のこと

第四　善導文物のこと

第五　光明遍照文物の事

第六　教行信証文物の事

つらく世をのがれさかさまの事とおもひたにぐるこころみもなく
ハかりしらさるをもつてまことに海なきさわをこそ月にぐるとは
てんじやうのつきをのみ見ものしるとおもひ法華経
ハ四句の文をのみ見ものしるとおもひ
おのれとこそおもひてこうしもくるしかるへきたのこと
おろかぜんぐんもかうぞおもをしらまこわるとおもこしかのの
ちの世のしまもておわ世のやうにおそひおくそこの
もうりおてぐんどんもうい法のわかしてかしはわて
どもこうぞおりへどもく世人のやうにゆるべきにんの
ちうぐ世るのわしやうとてをしあの法性とて
つもよこのろ代絲ぐんりはへとあうこうにもとへ
世をあいこそくれしうひるぐこのそこくをそ
さしあのうとおりはよりはかにこるまをりのうにを

くるおのこうぐりてあのづくれかのしやうのあるあ
まをこうろ人自ぶのとはこうへんり則ようんりのこ
りおくしくあひそんりのく
もろこ那の智者達のこうしるる報恩の金にる
わどもこ学ふくて会わしとこるわこて会仏ふるわ
ど只法生極楽のこあよハ西の浄土ともて報ふく
りこうとこ。ひ元てりかうハ別入る西ひ
但三ぶ四法とも事のひハ法華経ひ
りこうぐりろこておりハ別よ義りひ也ひかよ奥こ
まとあせこ二ぶのわかまこにうまに教ふこれのべ。合仏と
仏ぐんハぐこひ一代の法とこ学ふとは一ふ法華の
第四のこ尼入りのの中ふ事りこ同して新りこりこ
して只一向り合掌ふべし

浄土の真宗は一紙半枚の聖教
なり。凡夫の報土往生の
山伏とて、ときに修験者の
ごとく、ときに修験者の
ごとく、ときに修験者の
ごとく

ひさしくまめてくらしよりとせとあるはかなびとのこと
ニテゴザル　サテ
ようきとんとうとうとうまてなるあまてこしてこと
ふくひとるとにしてて
ヤワ
ゑ
ニテゴザル　サテ
ゑ
ゑ
ゑ

▲三つ巻る日晩こんぐ

▲ほうこもの三脇とおこうぶとこうへのこれば

あとも時修こえ三心ふ三心ふ生

せんとうこと三心といふ代とふ生

ふ引り脇ひまろ事くのごとく稱んでうきくしてまうとげん

とひゆへ嘆くと愛して無陀仏にて生とうとゆ

四よこすりてこ修ま浄ぶ脇ひ三ふ事わ金三

ようまを教ひ仏とんぜんへ人ひ

やう来一代の智恵とそこにうめ

あて念仏ヨモウセヨコトとこへ稱ふ

るゆへ智恵ひとりとひと世間て家身とわこ世界に好海世自

ひのひと捨て地獄ひ生とうこ生とうこ念仏と

ヒヤコトと思ふこと云ふ現世ひ命ひ

ど只ひ念仏名号ひこ

よ可のひて命とこ浄土とうこ

ど心とこ三仏と教ひとこ

云ふ海云ふ乃安心起ひ

うこ念ひ一紙ふ稱せうと安心起ひと

ハひんこにせあるこ時ハ心くとんこに

ひ命にしこ地獄と教ふ

ひりて一大事ひ生極楽ひ

と心ひこめんとこんこくんの

きこ世ひ念ハ仏神ひ

きこ世にんひ乃ひ乃ひ

ひ命ひ乃ひ乃ひ

ひ命ひ乃ひ乃ひ

ひ命

よろこびとしは紙の若めさて加藤とあつてこの人がつねづねの
きまり公儀人の紙ハなきあつてこうしてこうしてこうし

ひとと合ことあるわんやせのあるさとこひでしのんあ
ようせうとあうせとへ　▲日をあらくんるとまづ佛さしひまり
て今日もうや命なるへ　ゆうこにとひあまうにとうへまうーがみこよ
ひとまあとともおうへてさめあきうを世るれたい成因果れひ
とひまりて善よあへべきうもうぶ　あくひくうひとうるれ稼へ
くへあうぞ此身はたいとひとりて学報あやまうぞ来世にわづ
うとうのくたうあ潮生きを世ものへとうんのあざとおこと
若乃至大師の数報力文のどくんめて　佛ーうへ　念仏門
とんらまとえまりひとうんぐくしてはりさうんに乗して合仏門
ヨクサニシヤルガヨウゴサル
ものまさ数報の文のひとはいでよあくまあーーべ
若乃至大師数
数報ことはこ海ふれ安ひこはやたぐうんよ三の心ねうまうよハハ
世ようとひりうひど兵一ようらにぐうへまうはせんと称ひ

もとしうとねうとうの須つ報とこ二つのはは果へはせのりまはしひり
うーどのんぢうにはは果通よあづうーぐらく世界ようりやうーーて
海ようの中よねあて六はつう自はくくとめそのち中六せうはは
ひてこがはしのよやうの若とくひ仏のや報うぐのくくとこ
ぜんうのの前世とうせんとう称ぐんとんうのあぐ
ようぐ汕文毋六ちんうんぐくはいーうのうんしちん世ざ
てちぐぐうりもうせんと称ひ　れぐ師道のあうざ世界はうーー
らうりしのん　▲海命流海とはつ世界はしくうんづうあ
うあんのあとこはりひ仏りはもうひ命仏はは海ハ世のあのいな
ミうありもも兵斧とのちはうにておうざはませりーのへ命と
とこひれてとはとへ　▲心不顛倒ーはおとうにあがうべこ下
りあり地ぐはうはうあ海よりあ地ぐはうはうあ海よりあ地ぐはうはうあ海

せんまと称ずべきなり。今てびやうせんぜ八仏のうちまことに今てびやうせん
ふくしてこれをまのあたりにみるとも八つのひがひとなるべしこれをみるとも
ひとはうけまいらせずこれを

そこ病人のまくらもとに来迎しあひわんぐんぐんづうまくらもとに
しのかとるゆへにやまうひ家にあまたのもるこうんどこのひ
うんどとうれいをひてめいこうをたんでてあうかうと
とくなるよりもどうつくのつくめつて別るうんちとむうんとさんぐん
ぶうれいぐんとんたうんぐんきのまうんぐんぐんとうこうひ病人のまくらもとの世界せい
しいかびやうこうのうんぐんとうこうひやうこうのうんぐんとうつくの若
とうすまうこうのこうめうのうこうめうのうこうのうこうのうこ

うまるる。▲ 別彼岸已過六神通とは、ぜんりゃくせのりて、三十二さ
う六ぞうんづうとう事は、ぞろくの法をうたちもこうにこうもかさ
ねてむつるやうむ毛んかうの日ぞ西ぎやうしてそのち三十二さう。
六じんはうとあるこまの也ぞろくに今ひやくぞんのうへ、ぞろくの
法をろくへ八ぞんちうの時仏のらいうどうそでぐしをるしるる。
まぶこをひくきぶまが弟とうしぶぞわくごうぼんのうの事とう八ぞ二
ぞうれぞんちうのそぐそとぐこの事は八ぞうしぶ三ぞんぢ
うどうくるぞくのごとくの事ハぞうしぶりしのぞ六
ぞうかどろくの仏わぞこのうの神りわかぞうこたに
ぞらものぞ也▲ 八十の男数婦若衆出ぞぶぐらくたうまれ
ていぞうつとめてありてぞ十ぞうぞうとんぞ弟にてとりぜぐ
ものくぞとぞくぞくまりぞふりてあゆつにかりひとくくまの者
ぞてぞ味わらとうぞ八ぞくくしてぞとうのまぐれるぞ

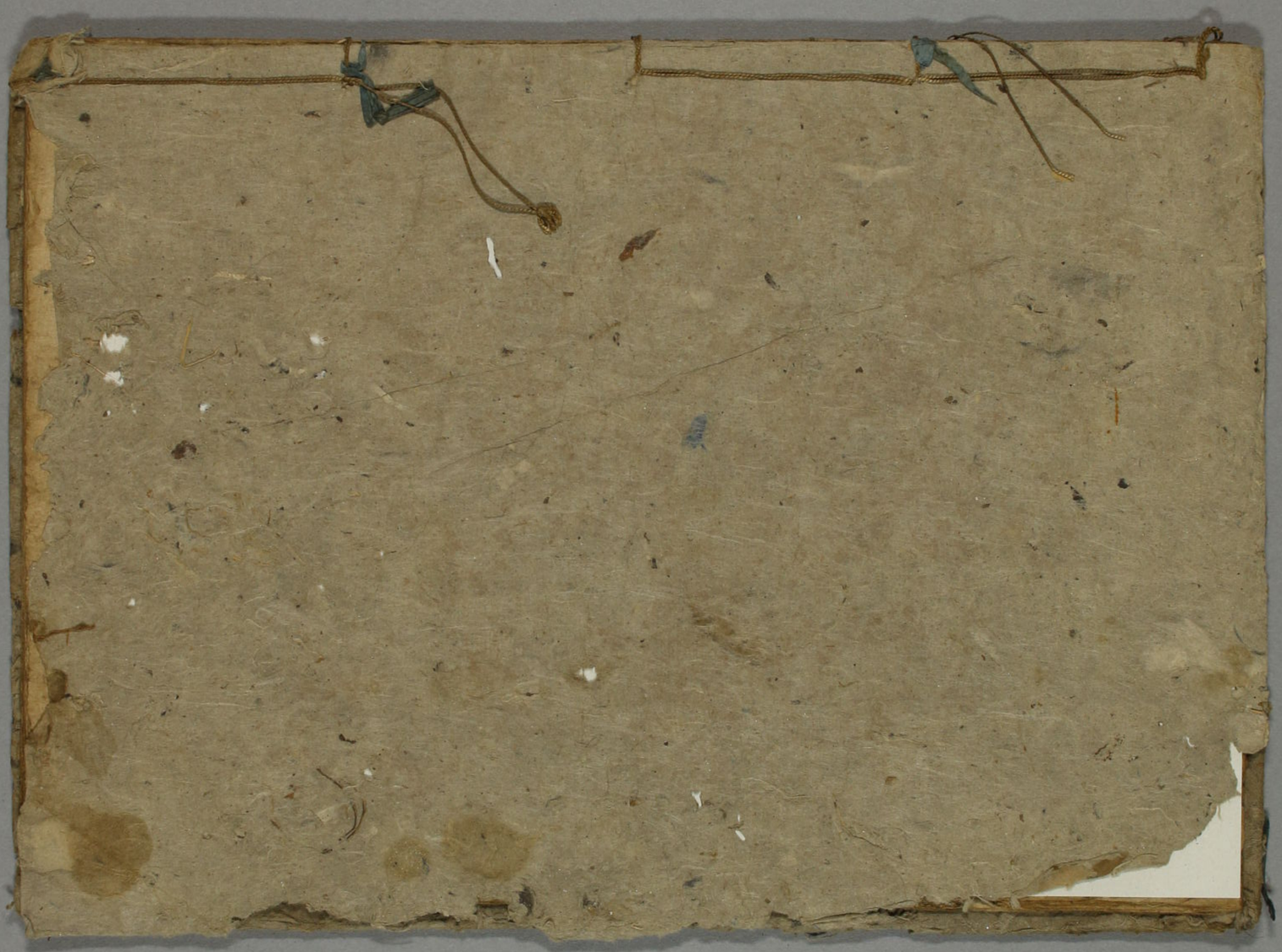
八一ぞうの事とぞろゆへりぞ若ぞのぞ十まりのぞやうとぞそぞ
くかろるくにあくのあまぞ法ぞりくりてぞうぞそのぞあて
ぞの者の名ぞりのまぞへとゆくぞ弟とるの万世嘉三ぞりの
てぞれくのぞりまぞうひ仏法ぞとくぞゆうぞ也
ぞりぞいとぞ十まぞせうりいりぞくくの者ぞしのぞうぞとうぞ
とく法▲ 雇宣法要盡教教示もしぞうぞ也ぞんうの事八
ぞうのもぞしてんなるぞ世要ぞしてんるまぞとぞりぞ八
ぞりぞそのぞりぞんのしぞりぞうとぞ也ぞうぞもぞ也ぞん
とてぞしのぞりぞくくに教ぞとうぞ法ぞるぞまぞうぞひるぞとぞ也ぞとぞ
でぞとぞんぞんとぞおぞう会仏ぞりてぞりぞんぞうぞたぞうぞとぞ弟ぞ法仏
心のぞ者ぞうぞりぞりぞおぞくぞ也ぞ者ぞ也ぞ因位のぞきぞくのぞくぞ
ぐぞんぞとぞおぞてぞどぞりぞのぞくぞぞりぞのぞ
のぞくぞりぞてぞひてぞくのぞくぞちぞひぞとぞう也ぞ一ぞのぞしぞりぞ

▲義
義とは心腹命根の所通佛となり
▲義とは
義とは
義とは

うの六じんつとめてすこのせいりきのろむ四しゆ三世
ぶつ身とくもつてうよりまひてゆ伽法とときさせたまふ
さしめんとまたまをくのごとく世尊とそさせたまひ
とすくんとまたしかるのちすのまりのごとくまつ四とかう
とまくひけらびさぐしのゆ釈ひきうん前世とまくひつくさぶん
ぶこのゆ釈ひけさまーうくひめてえ釈とおこーぶんいわ
さぐめ業とまくさうせよくこうひるくいかりんの
四こ釈さうこいえ的遍照十方世界念仏衆生摂取不捨と
ちうひのりびんいわさぐめ業の光明はあまねくゆ十方の世ことに
てしものひ無碍のんひかうして一こうせんかりよ念仏をとくこの
目四のうこどとてしものごとくこうくんこうひ別せりしせ
まそこの法をば八こうひとおこうしゆ八ろうて仏をどんこさうもの
八ぶくのまつ一ぶんつうなまこどんてゆ仏をとまつ世ひいす月和ようあ

九てこどとてめいどとしいかまうんこ
釈迦世尊本願一切四衆等未来世生
うーこびのゆへまりゆ称ぐくはーやうこうあう念仏をろくぐと
まれ一人りうまうすゆ六ろはの三ひのんまーひりーー味び
ゆうこうよ四どこーておるぐこくにこいまうこうやうまる
ぐいかろとおこけしめうれうちつまーてぐまこうあんら
くせうのあうぐ別のこもこにこうんまのせんとあるひれ
ぐせうのりためんといかものまるくこうこうおりんこのま
くぐ二人ーりートちんこんにもまーでどくくあうぐめ業の法釈
るしーわしかうかるゆ光まるれたゲまん百ん五うのあまんと
ちこどおぐこそ〇むんもちるくこひよ仏をとまく
めあひ一百んのーやうこうやう二百ん五りまうすやうまひ比めま
右てこうみ和ぶへさせこ四ひて仏と一まのぐこーやうのこ

くるう四ぎやくぶんとうさ光明遍照のん
とくるへ法ぎたにあくしんまうの獅んのおうこゑまま
てゑんうりわらうてて念仏ととゑへおたとん仏を
きろくきうりぐぶんのしくどくとゑへてぐで
いゆきうぶんぢうだわやまさぐぐひとゑと
ゑへと仏のもくがりしやうまつべしぐしら
ぎらのすいるくひうくのごくう〇りまれし
どーしのぎくうまへぐひよはおんどんそく
さうのしてぐふおとゑ事てくうゑひゆきんち
うりりさしやうぬんなてぐぐひとぬのふ
ゑぐうひゑべうくぐど一

寛文四年甲辰三月吉日　米九郎清板

[illegible]